

浜寺公園

沿革と概要

公園の誕生

浜寺公園は古来よりいわれ深い地とされてきた。即ち後村上天皇の正平年間大雄寺と名付けられた寺が三光国師により建立されたことに始まる。この寺のことを「高石にある浜の寺」と称していたが、次第に略して「浜寺」と呼び習わしてきたと言われている。これが現在の地名となり、公園名にも使われてきたのである。

その頃より、白砂青松の風致美は、世に比類無しとまで言われてきたのであるが、元々は南北に通じる紀州街道の東部の田畑を守るために反対側の西部に大松林を設けたのが現代まで守り続けられた松林の起源である。その規模は南北 24 町東西 8 町と言われている。

本公園は、明治 6 年太政官布達により浜寺公園として堺県を経て大阪府の設置管理するものとなった。その面積は 138,343 坪と言われている。

公園化の背景

公園化されるについては、次のような背景があった。当時、由緒ある松林が明治の初期に禄を取り上げられた士族のために民間に払い下げられ、1,791 本もの松が伐採の憂き目にあった。たまたま明治 6 年 7 月にここを通りかかった大久保利通卿が、この乱伐の状態を見て「音にきく高師の浜の浜松も世のあだ波はのがれざりけり」と慨嘆の歌をしたためたのである。松の伐採はただちに中止され、公園設置に向けて運動が展開された。公園設置後の事業として最初に松の植林が行われ、名勝の地への復元に努めた。

明治 30 年には、南海電車が開通し次第に公園利用者も増加したが、特に明治 39 年に海水浴場が開設されて以来、関西一円の人々に楽しまれてきたのも一つには風光明媚、立地条件の良さを物語っている。さらに、第 2 次世界大戦まではテニスコート、運動場、児童遊戯場、海の家、公会堂等を整備し、大阪府北部の山間にある箕面公園と対比する海浜公園として施設を充実し公園の近代化へと努めてきた。

米軍接收

昭和 20 年の敗戦によりアメリカ進駐軍の宿舎用として全面接收され、長年月にわたり育成されてきた名木の松も含め約 1,700 本もの松が伐採されてしまった。さらに、白砂の浜には土砂盛土と張芝がなされ宿舎をはじめ共同施設が設置されたことにより、その景観はかつての白砂青松の風致美とはかけ離れたものとなった。その後数年はこの状態で、公園的機能は全く閉ざされたかたちであった。

再整備の計画

昭和 33 年に進駐軍から返還されると同時に、「浜寺公園整備 3 ヶ年計画」を立案し、ただちに整備工事に着手した。旧防潮堤東側にある駐車場・児童遊戯場・テニスコート・野外ステージ・噴水・花壇などはこの時期に整備されたものである。また、その間に泉北臨海工業地帯の造成計画が進められ、この一環として昭和 37 年頃より浜寺公園海浜地先も約 256,000 m²が埋立てられ、公園用地となっ

た。しかし、このためそれまで長年にわたって府民に親しまれてきた海水浴場は閉鎖されることになった。

東洋一のプール完成

これに代わる施設として、昭和 38 年 6 月に当時東洋一と言われた多種多様のプール群を完成させたのである。その他に、中央観賞園・交通遊園・子供汽車等の整備により一段と近代的な公園としての内容の充実を図った。昭和 48 年には旧アメリカ進駐軍宿舎の最後の施設を撤去し、その跡に 8 面のアンツーカテニスコートを設置した。また、名勝として愛されてきた松林の復元にも力をいれ稚松の植栽を施行し、現在では松の中高木は 4,998 本で総本数 5,517 本となっている（平成 4 年 6 月調査）。その成果が実り、「21 世紀に引き継ぎたい日本の名松 100 選」と「大阪みどりの 100 選」に選ばれた。

「ばら庭園」完成花ふる大阪事業

最近では、平成 2 年の「国際花と緑の博覧会」を契機に公園のリフレッシュと質の向上を目指して、昭和 63 年より「ばら庭園」の整備に着手した。「ばら庭園」は、60 種 6,000 株のバラを日本の回遊式縮景庭園という形の中に植栽し、他に例のない和風庭園の中でバラを観賞してもらう手法を採用したものである。平成 2 年 4 月にオープンし好評を博してきたが平成 4 年度の入園者数は約 40,000 人に達した。また、昭和 63 年度には中央エントランスを改修し、平成 3 年度からは中央バラ園の改修工事に着手した。エントランスから「ばら庭園」までの動線を明確にするとともに、観賞、休息の場としてより充実することを目指している。

また、テニスコートの全天候化や野球場の改修等、老朽化した施設の改修に加え、段差の解消・ベンチの増設等、老人や車椅子利用者等に配慮した公園づくりにも努めている。

交通遊園の改修

昭和 40 年に開園した交通遊園（3.2ha）を平成 14 年に改修して開園している。

小学校、幼稚園、子供会等団体の「こども」を対象に指導員がわかりやすく説明して交通ルールや事故防止について意識を高める府民交通教室などを開催している。

防災公園施設整備工事

広域避難地として大阪府防災公園に位置づけされており、非常用自家発電設備及び放送設備の設置、避難路確保のための出入口改修などを行ない、災害時に備えている。

浜寺公園の経緯

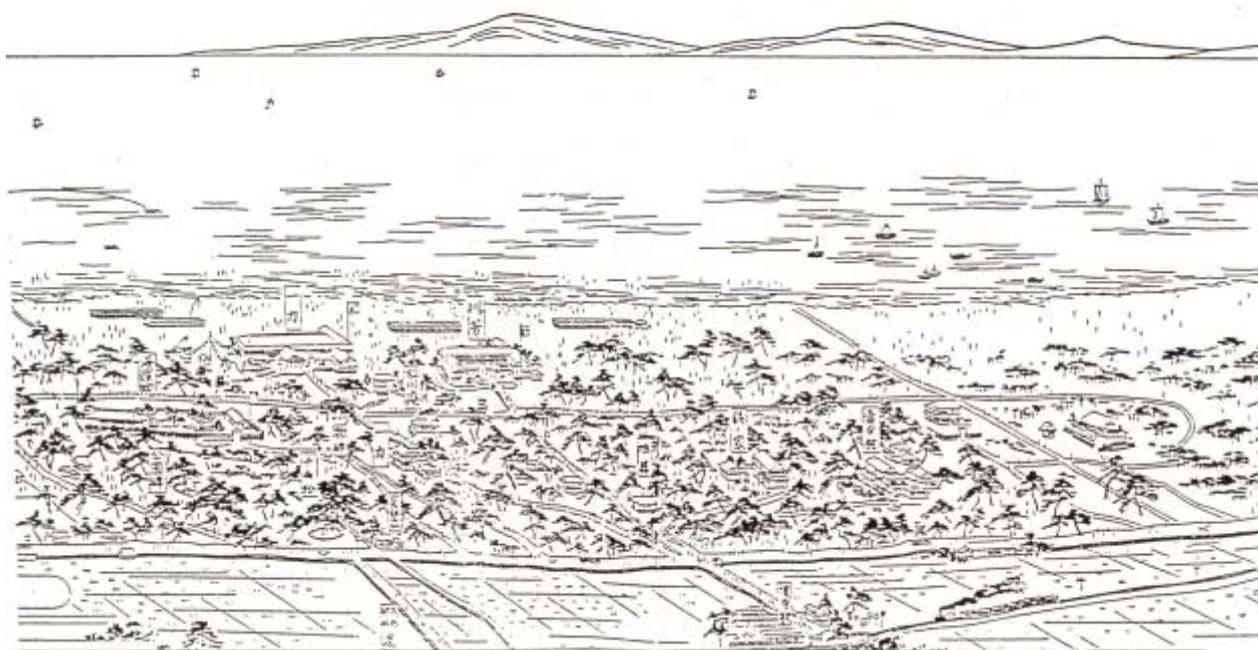
年 月 日	項 目
	<p>浜寺という名称は、後村上天皇の正平年間に三光国師（覚明）が建立した大雄寺が浜辺にあったため、浜寺と称し、寺が廃絶した後も地名として残ったものである。</p> <p>宝永年間に入り、船尾、今在家など5カ村において紀州街道以東の古木を数千本を伐採し、街道以西に松を植え防風林とし、寛延年間には南北2,600m（24町）、東西870m（8町）に及んだ。</p>
明治元	<p>明治元年、田安藩が松林を拓いて田圃にしようとしたが、果たさず、同2年、前記5カ村に払い下げ、伐採に着手した。</p>
3. 2	<p>明治2年12月、堺県となり、同3年2月伐採は停止を命じられた</p>
5. 12.	<p>明治5年、土族授産を名目に払い下げ、12月に再び伐採に着手、残る松林2,639本のうち、1,791本を伐採した。</p>
6. 12. 24	<p>内務卿大久保利通がこの濫伐を見て慨嘆し、伐木の停止を告げ、明治6年12月24日、太政官布達により浜寺公園となった。</p> <p>面積48.5ha（147,600坪）であったが、伐採前の半分にも達しなかった。</p> <p>堺県の廃止後、大阪府が管理することとなり、風致の回復を図ったが、当初は交通不便により、利用者は少なく、寂寞を極めた。</p> <p style="text-align: right;">（以上、大阪全誌による）</p>
30	<p>南海電車が尾崎まで開通、浜寺に停車場が設置され、利用者が急増した。</p>
38	<p>南海鉄道会社が公園地を借りて、遊園場、売店を開く。</p>
39. 7	<p>浜寺海水浴場開設</p>
45	<p>阪堺電気軌道が浜寺まで開通</p>
大正 13.	<p>5,000人収容の大スタンド付庭球場竣工等、公園として整備され府民のレクリエーションの場として親しまれるようになった。</p>
昭和 6. 3	<p>第1期園内住宅整理 完了</p>
8. 8	<p>浜寺公園事務所 設置</p>
20. 8	<p>終戦により、米軍宿舎として接收され、宿舎建設に伴い、17,000本の松が伐採された。</p>
33. 2	<p>講和条約の締結により接收解除、浜寺公園整備事業に着手。近代的な海浜公園をめざし、児童遊戯場、野外ステージ、駐車場、庭球場、パーゴラ、中央花壇等が完成した。（36.3完成）</p>
34. 3. 17	<p>都市計画決定 計画決定面積：45.0ha</p>
36	<p>浜寺ヘルスセンター 開設</p> <p>泉北臨海工業用地の造成計画が決定される</p>
37	<p>泉北2区（新公園地）の埋立開始、埋立地19.48haを公園地とする。</p>
7. 11	<p>公園事務所「麿」の指定を受ける</p>
38. 7. 10	<p>泉北臨海工業地帯の造成により、浜寺海水浴場の機能が停止するため、新公</p>

年 月 日	項 目
	園地に大小7つのプールを開設する。
40. 5. 5	交通遊園開園(2.0ha)
41. 4. 2	子供汽車開通(1.5km) 42.2.15 交通遊園が完成
11. 30	児童遊戯場が完成し、有数の都市公園となる。
42. 3.	臨海緑地の都市計画決定区域(11.58ha) 特許事業を開始
8.8	都市計画変更 計画決定面積 60.68ha(埋立地を公園区域に含める)
43. 8	公園管理事務所の機構改正により、浜寺公園に臨海公園事務所が設置 (管理下に二色の浜公園)
44. 4	臨海緑地を公害防止事業団から譲渡を受け、開設する。 臨海公園事務所に大泉工区を設置する
45. 3	25m プール2面を増設する
11	浜寺公園の松が枯れることが問題となる
45~46	松枯損原因究明の調査を行なったが、決定的な結論を出すには至らなかった
46. 10	D-51 機関車を設置
47. 4	大泉工区は大泉緑地開設により、臨海公園事務所から南部公園事務所の管理 下に移る
48	野外活動センター完成、野球場が増設される
7	異常湧水により浜寺公園のプール閉鎖
49	テニスコート8面完成
53. 8	異常湧水により、松に被害あり
54. 7	公園事務所を現在の場所に新設(762㎡)
57. 4	子供汽車「もず号」老朽化のため廃車、SL型「浪花号」誕生(宝くじ協会 寄贈:6千万円)
5	21世紀に引き継ぎたい日本の名松100選の一つとして、浜寺公園の松が「名松 100選」に選ばれる(社団法人 日本の松の緑を守る会)
58. 11	(財)日本さくらの会より「宝くじ桜」の寄贈を受ける ソメイヨシノ800本、八重桜200本 浜寺公園:920本、二色の浜公園:80本
62. 4	臨海公園事務所に蜻蛉池公園工区 設置
62. 12. 4	都市計画変更 計画決定面積:63.3ha(堺市37.0ha、高石市26.3ha)
63. 12	平成2年4月、鶴見緑地で開催される国際花と緑の博覧会に合わせて、 公園のイメージアップを図るために、ばら庭園の整備に着手。
平成 元. 3. 3	蜻蛉池公園工区事務所 設置
2. 3. 31	「花ふる大阪」事業 エントランス広場完成(中央入口の改修)
3. 4. 26	ばら庭園(2.3ha)開園
12	身体障害者や老人の安全な公園利用を図るため、車イス用の出入口整備や、 ベンチの増設に着手する。

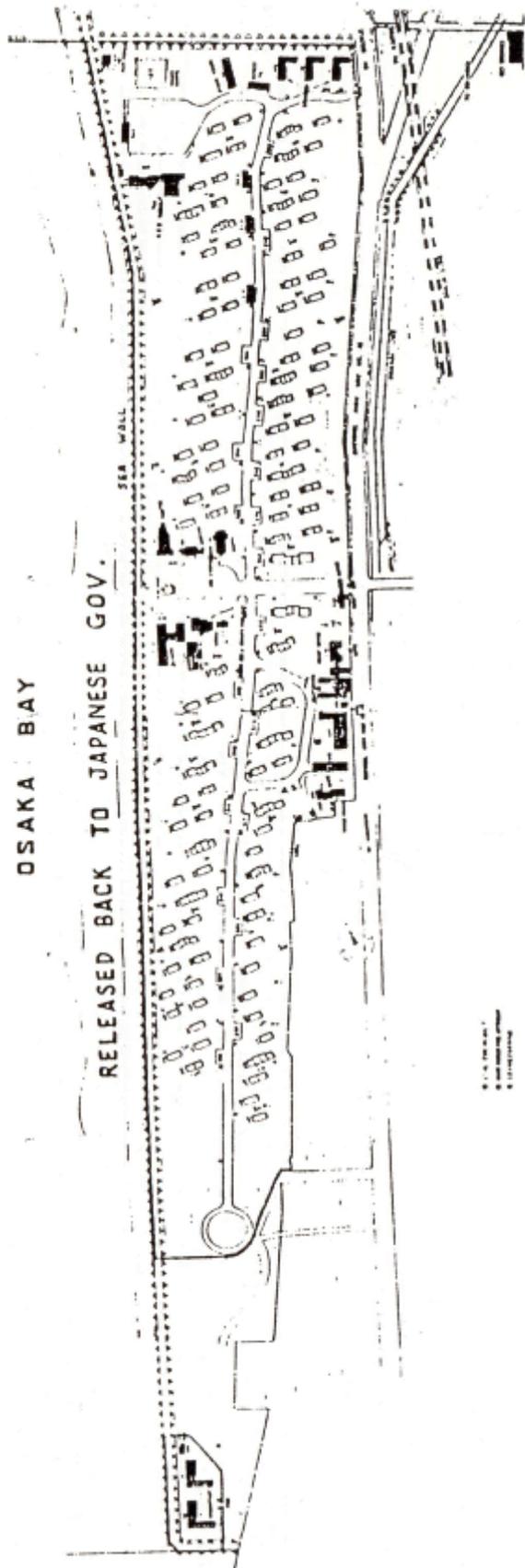
年 月 日	項 目
4. 3	中央バラ園再整備事業に着手し、レストハウス前に噴水が完成する
5. 3. 10	第2野球場改修（内野、フェンス等）
4. 1	臨海公園事務所に「せんなん里海公園工区」設置
5. 17	中央バラ園にバラ花壇が完成（「花ふる大阪」事業）
10	せんなん里海公園工区事務所 設置
10. 24	府営公園開設 120 周年記念イベントを浜寺公園と住吉公園を結び開催する。 （ふれ愛ウォーク他）
8. 9	交通遊園再整備工事が一部竣工、 駅舎棟とゴーカート乗場等を新築し、子供汽車軌道やゴーカート走路も新しい コースになる。
9.10	旧交通遊園敷地内に大阪府立羽衣青少年センターが新規開設 大阪国際ユースホテルが併設される
10. 3	ゆったりトイレ（4・5・6号便所）新築工事 完了
11. 3	子供汽車（浪花号）改修工事 完了 ゆったりトイレ（3号便所）新築工事 完了 ほっとコーナー（2箇所）工事 完了〔北部・南部児童遊戯場〕
12. 2	ゴーカート走路改修工事 完了
3	プール塗装（変形大、徒渉池）工事 完了
5	児童遊戯場（2箇所）の再整備 完了〔北部・ポンプ場上児童遊戯場〕
13. 1	ヒーリングガーデナー養成講座 開始
3	南部遊戯場北側の再整備工事 完了
3	水路沿い照明灯改修工事 完了 プール防水（25m 4・5号、50m 2号）工事 完了 阪堺電気鉄道（株）から電車（130）の寄贈を受ける
4	南部遊戯場の再整備工事 完了 便所新築（交通遊園南、野球場北）工事 完了
5	交通遊園周辺再整備工事 完了
7	プール大噴水（変形大）等の改修工事 完了
14. 2	プールオーバーフロー水循環機械・電気設備等の工事 完了
3	交通遊園教室新築工事、交通遊園前広場の整備工事 完了 プールクラブハウス耐震補強工事等 完了 プール遊具改修他（変形小）工事 完了
15. 4. 1	公園管理を（財）大阪府公園協会に委託
16.	照明設備整備工事 完了（安まち、公園北入口～Cキービル）
18.	バラ庭園再整備工事 完了
4. 1	指定管理者制度の導入により、公園管理を（財）大阪府公園協会に委託する。
5	大阪市内で開催された「世界ばら会議」の参加者が現地視察
19. 3	プール下水管布設工事 完了

年 月 日	項 目
20. 2	防災公園整備（出入口改修）工事 一部完了 テニスコート改修（2面）工事 完了 プール滑り台等改修（変形小）工事 完了
20. 3	園路他（給・排水施設、園路改修）整備工事 完了 備蓄ヤード整備工事 完了
21. 2	防災公園整備（出入口改修） 一部完了 防災関連整備（非常用電源設備） 完了

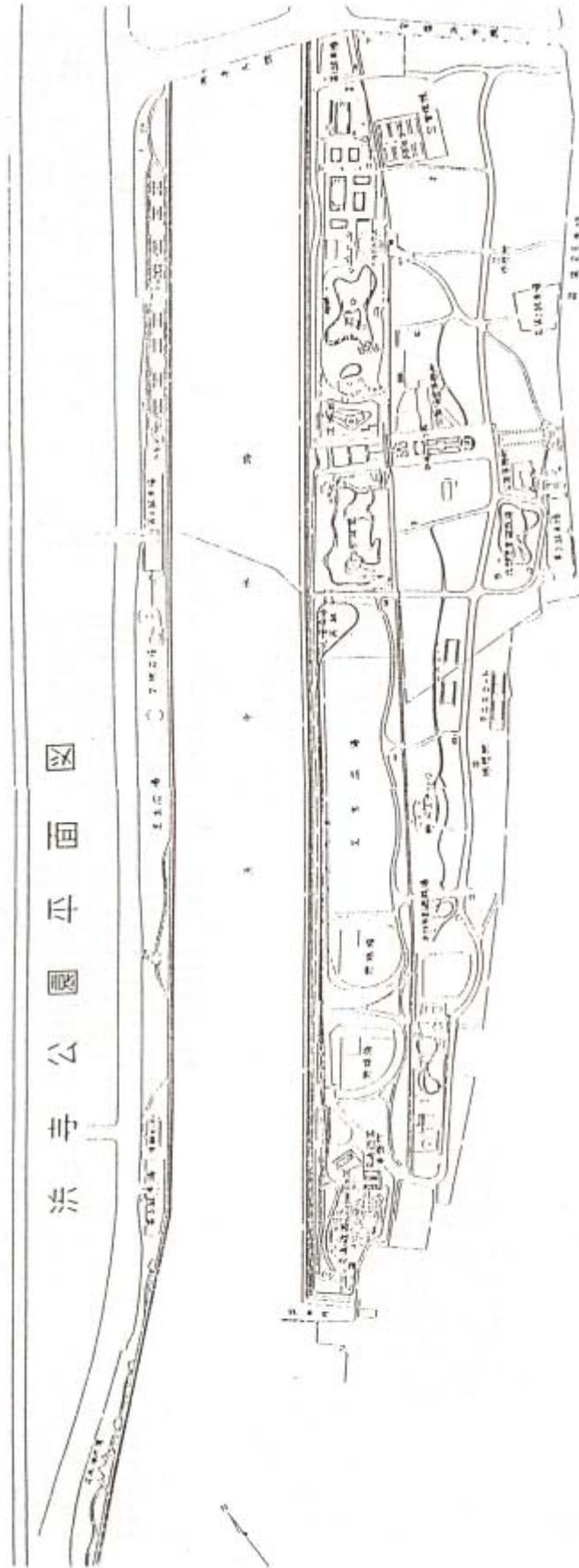
【図】明治 35 年（和泉名所図絵）



【図】昭和 30 年 浜寺公園に設置された米軍宿舎



【図】平成4年



法寺公園平面図

【写真】昭和 46 年 浜寺公園



【写真】平成 5 年 浜寺公園



【写真】昭和8年頃 園内風景（伊達氏提供）



【写真】在りし日の羽衣の松



【写真】昭和 45 年 8 月 10 日の変形大プールの噴水と人々



【写真】昭和 38 年頃 プール群施工中



泉北臨海緑地

沿革と概要

臨海工業地帯の造成

昭和 32 年に経済企画庁が立案した「新長期経済計画」を受け、大阪府は主として重化学工業を対象とした大規模な臨海工業用地の造成計画を策定した。浜寺公園の地先に計画された泉北臨海工業用地は、昭和 38 年から 47 年にかけて造成工事が行われ（造成面積約 764ha）、一大工場群が形成された。

緑地の建設

こうした状況の中で、泉北臨海緑地は泉北臨海工場地帯の公害・災害対策及び工場労働者の福利に資することを目的として、昭和 42 年に日本で初めて緩衝緑地として都市計画決定された。

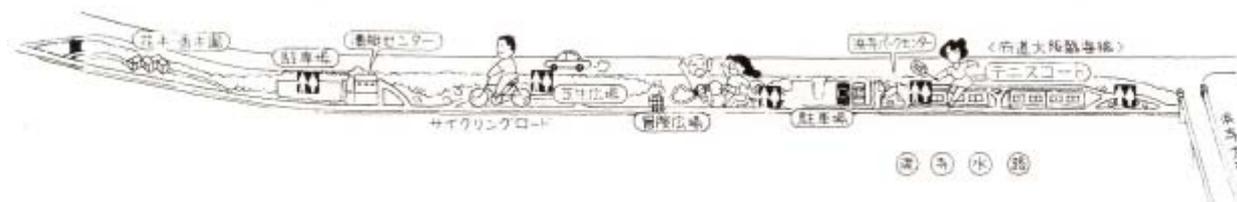
本緑地は、騒音・振動・大気汚染等の公害防止、生活環境の保全及び改善、工場群の爆発及び火災から水路を隔てて浜寺公園に隣接する市街地への被害を防止するとともに避難場所としての機能をもつ他、労働環境整備の一環としてオープンスペースの利用を通じて健康の増進にも役立たせようとするものである。

昭和 43 年に公害防止事業団が特許事業として工事着手し、植栽を中心に園路、広場、休養施設等が整備された。昭和 44 年 3 月に竣工し大阪府に譲渡され、同時にその管理を臨海公園事務所が行うものとなった。

湾岸線の通過に伴う再整備

以後、樹木が成長し緩衝緑地としての機能が果たされてきたが、昭和 57 年に計画決定された大阪府道高速湾岸線が本緑地の一部上空を占有して通過することになったため、修景及び機能復旧のため、昭和 62 年度から平成 3 年度までの計画で、阪神高速道路公団の費用負担により全面的な再整備を行った。これにより、以前は便所とサイクリングロードの他は樹林地だけであったが、全天候テニスコート 8 面や冒険広場、パークセンター等が作られレクリエーション機能が充実し、広く府民に親しまれる緑地となった。

【図】



泉北臨海緑地の経緯

年 月 日	項 目
昭和 41. 12. 10	大阪府より公害防止事業団へ共同福利施設譲受申込
42. 3. 30	譲渡契約締結 (16,000万円)
31	建設事業実施計画認可
8. 8	堺及び高石都市計画緑地として、計画決定、事業決定、特許事業決定 計画 決定面積 11.58ha (堺市 3.7ha、高石市 7.88ha) 所在地：堺市築港浜寺町、高石市高砂 1 丁目
43. 3. 6	建設大臣より特許を受ける
20	知事、実施設計を認可
4	工事着手
44. 3. 31	竣工
4. 1	大阪府、事業団より引き渡しを受ける
57. 12. 8	大阪府道高速湾岸線の計画決定 (泉北臨海緑地の一部の上空占有) 湾岸線の計画決定に伴い、泉北臨海緑地について都市計画変更を行う。 計 画決定面積 11.8ha (堺市 3.7ha、高石市 8.1ha)
60. 3. 19	上記湾岸線の築造に伴い、緑地の機能復旧等の改修について、事業団に協議、 承諾を得る
62. 12. 1	大阪府と阪神高速道路公団は、緑地の機能復旧及び整備のための費用負担に ついて、協定書を交わす 概算負担額 96,686 万円 (事務費を含む) 事業年度 昭和 62 年度～昭和 65 年度
12. 4	泉北臨海緑地の都市計画変更 (名称のみ)
63. 1. 30	改修工事に着手
平成 2. 3	冒険広場、駐車場、保安灯を整備
3. 1. 24	阪神高速道路公団との費用負担について協定を変更 概算負担額 98,672 万円 事業年度 昭和 62 年度～平成 3 年度 平成元年度より消費税制度が導入された為、消費税相当額 (1,985 万円) を上 乗せすると共に、事業年度を 1 年延伸した
3. 3	パークセンター、全天候テニスコート (砂入人工芝) 8 面完成
4. 3	改修完了 改修事業費精算額 98,132 万円
5. 10. 24	府営公園開設 120 周年記念イベントで府民テニス大会が行われる
17. 3	アーチェリー練習場、駐車場改修、パークセンター改修 完成
21. 2	防災公園整備 (放送設備 8 基) 完了